

妊娠中の母性意識

○黒川 徹 (九州大学医学部小児科)
小島 誠子 (母子衛生研究会福岡支部)
佐伯 昭代 (")
石橋 薫 (")
伊藤 許子 (")

妊婦を取り囲む社会環境、経済状況が変動する中で妊婦の置かれている立場、心理状態を正しく把握し、今後の母子保健推進の目安とすべく今回の調査を行った。

調査方法

アンケート項目については愛育班アンケートその他を参考にした。期間は昭和57年5月から7月までとし福岡市、北九州市の母親教室に参加した者、1450名についてアンケートを配布し、会場にて無記名にて記入してもらった。回答数は827であった。

結果

① 妊婦をとりまく社会的環境

年齢は図に示すように26~27才をピークに16才から40才までであった。

学歴は表1に示す如く高卒が53%でもっとも多く、ついで短大が22.9%であった。

職業をもっているものは17%で、事務系6%、専門技術職5%であった。そのうち半はパートタイムであった。こども時代の同胞数は1人が8%、2人が71%であった。

② 妊婦の心理的環境

自分の育った家庭の雰囲気はとてもなごやか40.2%、どちらかというとなごやか44%、あまりなごやかでなかった1.9%であった。この中であまりなごやかでなかったものは32~40才の高令者に多くみられた(表2)。

妊娠にきづいたときうれしかったものは73.4%であったが、26.6%は何らかの事情、理由でとまどいがあった。16~22才ではうれしかったものは49.4%と少なかった。妊娠に対する計画性は、望んでいた、あるいは計画していたものは78.2%

で、16~22才では約50%と少なく、早過ぎたと思うものが多くみられた。

妊娠中の健康は非常に良い22%、大体良い69.3%、悪い8.4%、不明0.3%であった。妊娠や出産に対する不安は、ないものは27.9%、ある者は46.9%、あまり考えたことはない23.2%であった。生まれくる赤ちゃんについての不安は55.9%にみられた。これは高卒以上のものに多い傾向がみられた。経済的、生活環境的、精神的不安が43%にみられた。

家庭生活、育児に期待、夢をもっているかについては強くもっていたものが低年齢により多く、22才以下では41%に達していた(表3)。一方、どちらかというともあまりもっていなかったものは年齢が増すにつれて多く32~40才では23%がそうであった。現在の結婚については夫ともども望むは高年齢ほど少し、高年齢になるに従って、今の結婚は夫は望んでいたが自分は望んでいなかったりという率が上昇していた。家でこどもを育てることと、社会に出て働くことのどちらを望むかについては家でこどもを育てるが88.1%、家でこどもを育てるのが大切だが現実には働くが1.5%、両方を考えているが7.9%、現実には育児をするが社会に出て働くことが大切と考えているものは2.5%であった(表4)。また、大学卒程育児が大切だと考えていた。現在の結婚については自分は望むが夫は必ずしも望まないものは専門学校卒以下に多く、自分は望まないが夫は望んでいたは大学卒に多かった。妊娠にきづいたとき嬉しかったものは中学卒、大学卒でやや低い傾向がみられた。

家庭生活、育児については期待や夢をどちらかというともあまりもっていないものは大学卒に多い傾向があったが(21.7%)、まったくもっていない

かったものは中学卒(11.1%)に多かった。

妊娠するまで赤ちゃんや小さい子どもとの接触、世話の経験については保母、幼稚園、看護婦を通してあったものは9.9%、日常生活を通してあったものは16.9%、少しあったものは44.9%、経験のないものが28.3%もあった。

授乳は中卒では規則正しいことを希望し、短大、大学卒では赤ちゃんの要求によるとするものが多い傾向がみられた。短大、大学卒は母乳絶対が65~67%を占め、中学卒では母乳絶対は27%に過ぎず、なるべく母乳63%、混合10%と多くみられた。職業の有無による栄養法に差はなかった。

考 按

高度成長時代から低成長時代へと移行し、核家族化、教育水準の上昇、女性の職場進出、少産少死の時代となり、妊婦をとりまく社会的、心理的

環境について調べた。このアンケート結果からは精神面での母子関係の緊密さは妊娠に対する喜び、育児に対する気構えを見る限りにおいて良好であり、言われている大人の無責任さは現われていなかった。

本調査でつぎのようなことが明らかとなった。

第1に妊娠に対する計画性が非常に高く、その結果健康状態も非常に良いと自覚し、そのことにもっとも注意を払っていた。

第2に約半数の妊婦が妊娠、出産、育児に対して不安をもっていた。これらは学歴、親との同居の有無が関係していた。

第3に妊娠、出産、育児は女の仕事という古くからの概念が崩れ、夫の積極的な協力、参加を希望していた。

第4に妊娠中の年齢、中高卒と短大・大学卒の間では妊娠、出産、家庭生活に対する期待、考え方が異っていた。

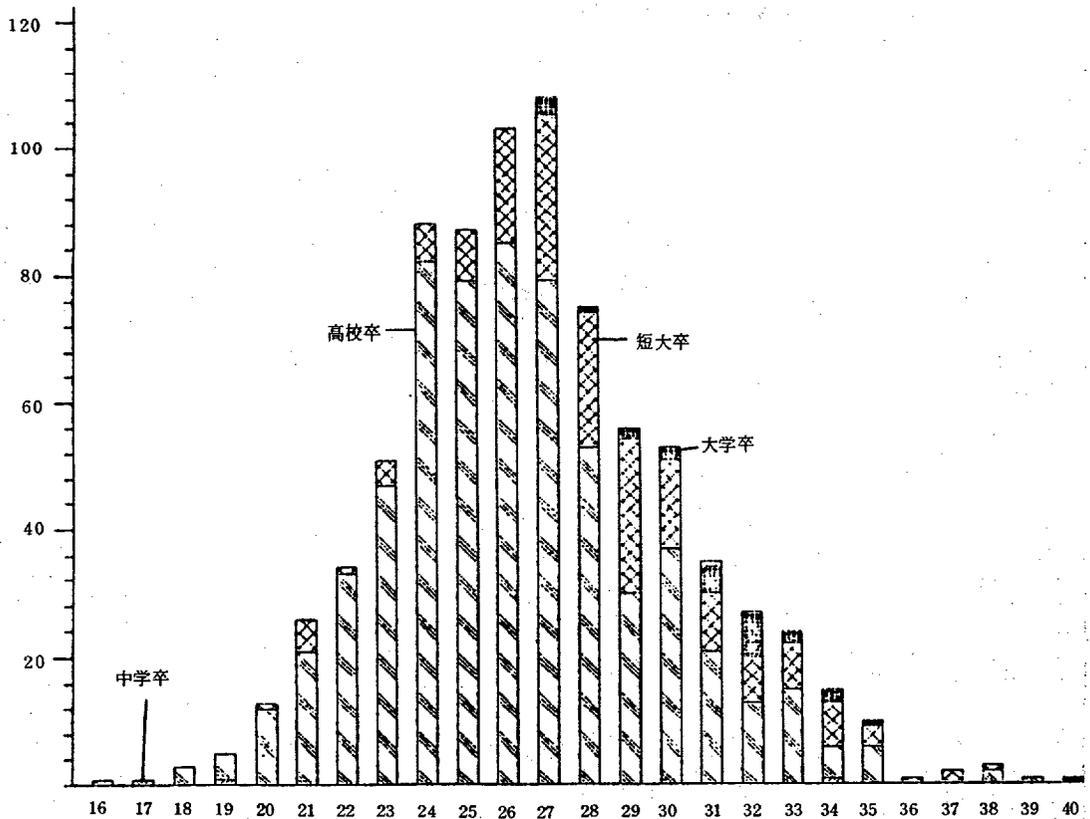


図1 対象妊婦の年齢と学歴

表1 学歴

		高校	専門 学校	短大	大学 以上	その他
(名)	32	439	90	190	61	3
(%)	3.8	53.0	10.8	22.9	7.3	0.3

表2 年齢別にみた育った家庭の雰囲気

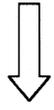
項目 \ 年齢	15才未満	16～22才	23～25才	26～28才	29～31才	32～40才	合計
とてもなごやか		27名 (33.33%)	101名 (46.12%)	110名 (40.89%)	49名 (35.77%)	30名 (36.59%)	317名 (40.23%)
どちらかと云うと なごやか		39名 (48.16%)	96名 (43.38%)	117名 (43.49%)	68名 (49.64%)	30名 (36.59%)	349名 (44.29%)
あまりなごやかで なかった		12名 (14.81%)	20名 (9.13%)	36名 (13.38%)	20名 (14.60%)	19名 (23.17%)	107名 (13.58%)
全くなごやかで なかった		3名 (3.70%)	3名 (1.37%)	6名 (2.23%)	0	3名 (3.66%)	15名 (1.90%)

表3 年齢別にみた家庭生活や育児に対する期待

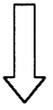
項目 \ 年齢	15才未満	16～22才	23～25才	26～28才	29～31才	32～40才	合計
強く持っていた		34名 (41.46%)	69名 (31.51%)	73名 (26.55%)	26名 (18.44%)	19名 (22.89%)	221名 (27.63%)
どちらかというと もっていた		40名 (48.78%)	112名 (51.14%)	146名 (53.09%)	72名 (51.06%)	45名 (54.22%)	415名 (51.88%)
どちらかというと あまり持っていなかった		4名 (4.88%)	32名 (14.81%)	52名 (18.91%)	31名 (21.99%)	19名 (22.89%)	138名 (17.25%)
全く持っていなかった		4名 (4.88%)	6名 (2.74%)	4名 (1.45%)	12名 (8.51%)	0	26名 (3.25%)

表4 学歴別にみた育児と職業に対する考え

項目 \ 学校	中学校	高校	専門学校	短期大学	大学	その他	合計
家で子供を育てる ことが大切	20名 (70.92%)	376名 (88.26%)	75名 (85.23%)	164名 (89.18%)	56名 (93.33%)	2名	693名 (88.06%)
家で子供を育てるのが 大切だが現実には働く	0	8名 (1.88%)	0	3名 (1.63%)	1名 (1.67%)	0	12名 (1.52%)
両方を考えている	3名 (11.54%)	31名 (7.28%)	12名 (13.64%)	13名 (7.07%)	2名 (3.33%)	1名	62名 (7.88%)
社会に出て働くことが 大切現実には子供を育 てることも	3名 (11.54%)	11名 (2.58%)	1名 (1.14%)	4名 (2.17%)	1名 (1.67%)	0	20名 (2.54%)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



妊婦を取り囲む社会環境,経済状況が変動する中で妊婦の置かれている立場,心理状態を正しく把握し,今後の母子保健推進の目安とすべく今回の調査を行った。